

第 39 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会③】

日時：2024年1月10日（水）

部会②・部会③

10:00～12:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

【部会③】

(1)開会

(2)試掘調査の結果について

【資料 1】

(3)その他

(4)閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

試掘調査位置について

【資料1-1】

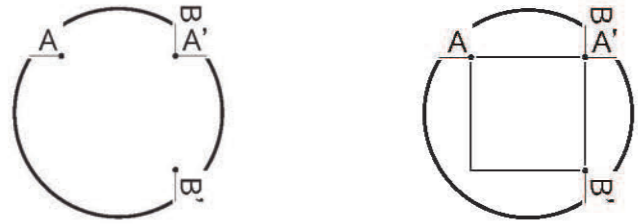


試掘調査一覧

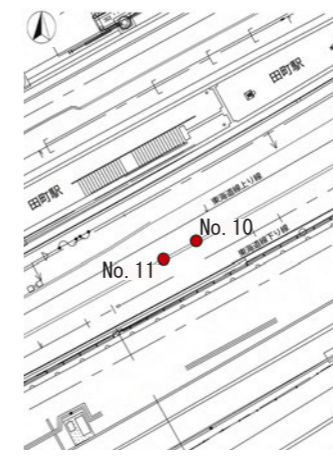
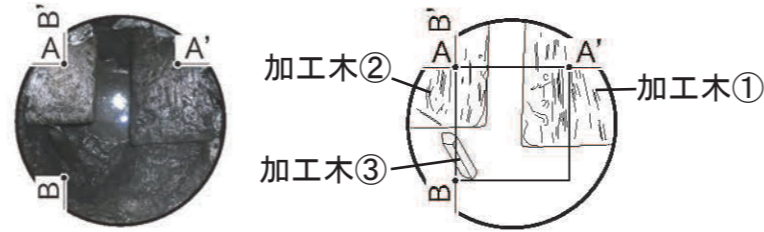
調査地点	調査の目的	調査方法	実施状況
到達立坑部分 2 箇所 (No. 10・11) 資料1-2参照	・築堤の遺存状態の確認 ・薩摩台場と築堤の関係性の確認	ライナープレート(内径 1100 mm) T.P-2.0mまで調査予定	2023/10/20～ 2023/12/4 (現地)
雑魚場架道橋 資料1-4参照	現状の雑魚場架道橋と事業計画との 支障関係の確認	写真測量 (測量成果を参考に、試掘調査を検討する)	2023/11・12 写真測量実 施、図化作業中
薩摩台場の内外 (No. 1・2) 資料1-3参照	薩摩台場・築堤が想定される部分と、その外 との土層堆積状態の比較資料を得るため	ボーリング調査 (Φ116 mm)	2023/11/27・28
薩摩台場北東部	薩摩台場の位置・範囲と遺存度の確認	トレンチまたはライナープレートによる調査	未着手 具体的な調査位置を調整中

到達立坑部試掘について

試掘坑No. 10



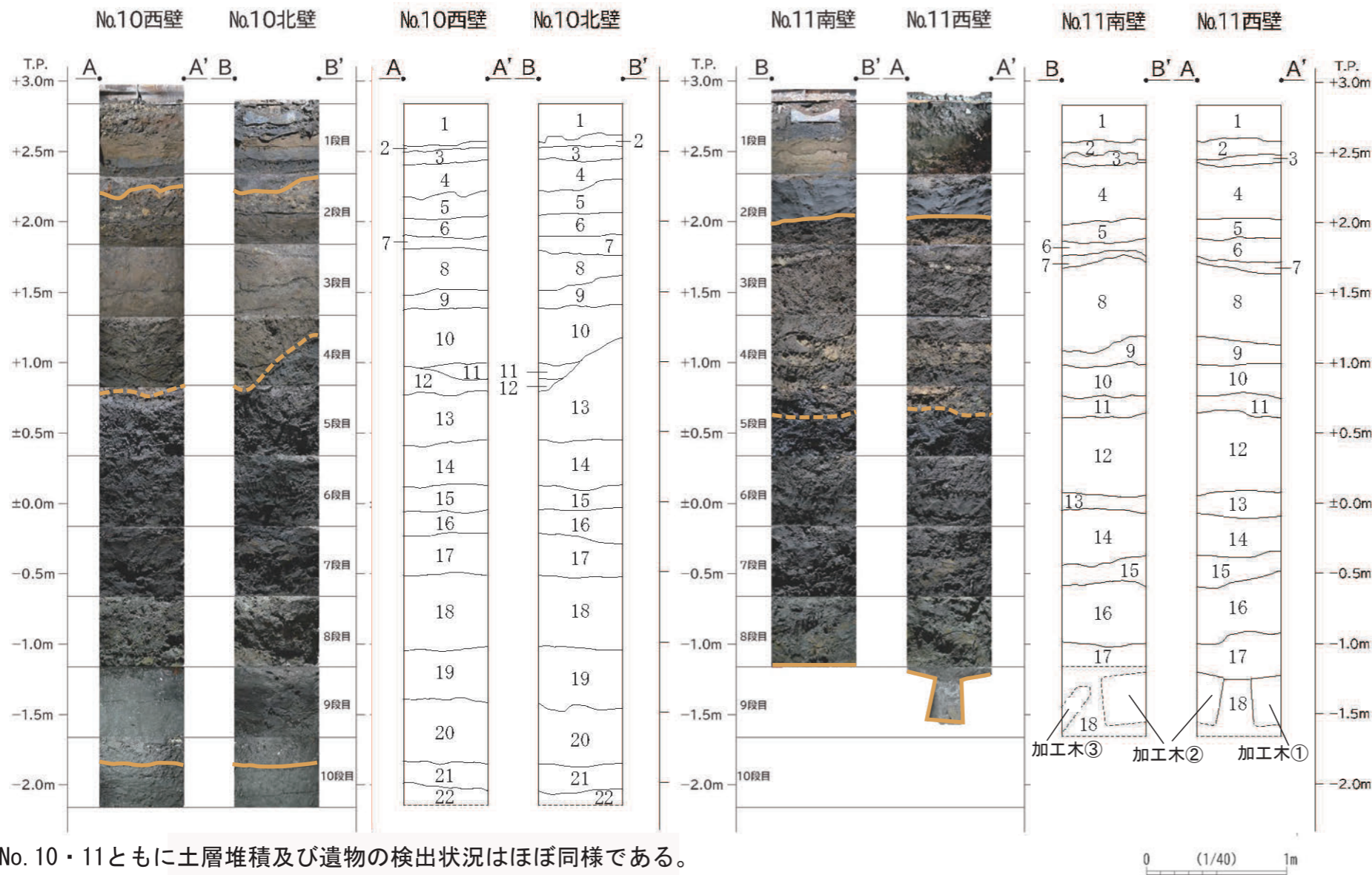
試掘坑No. 11



試掘坑配置図 (1/800)



写真1 試掘坑No. 11 2段目出土遺物



No. 10・11ともに土層堆積及び遺物の検出状況はほぼ同様である。

薩摩台場築造に伴う埋立土

橙色実線で示した範囲が薩摩台場築造に伴う埋立土とみられる。埋立土は概ね水平に堆積している。
 橙色破線より上層はロームブロック・粘土ブロックを含む褐色土、暗褐色土からなり、18世紀中頃～後半の遺物を確認。
 橙色破線より下層は粘土や砂質土をより多く含む暗褐色土主体になり、多量の貝片・木片とともに18世紀中頃～後半の遺物を確認。
 No. 10の第21・22層は貝片・木片・遺物も混入しない粘土層だが、明確に自然堆積層とは断定できない。

遺構：No. 11の9段目（TP-1.8m付近）で立方体または直方体とみられる木材（加工木①・②）を2点と角材（加工木③）を検出。
 全容は不明だが、形状が類似する加工木①・②が同一標高でほぼ水平に検出された状況から、人為的な構造物の可能性が高い。
 No. 10・11の8段目でも木③と同様の角杭が検出されており、関連性が考えられる。
 その他の遺構は検出されなかった。

遺物：総数227点。ライナープレート1段ごと一括して取り上げた。一部、壁面で確認できた遺物は層位ごとに取り上げた。

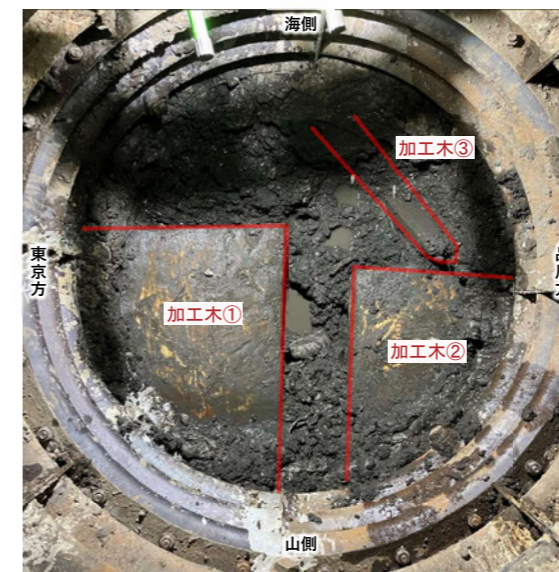
- 1、2段目（薩摩台場築造以降の盛土）から19世紀後半頃の遺物数点出土（写真1）
- 4～6段目、8・9段目（薩摩台場に伴う埋立土）で18世紀中頃～後半の遺物が比較的まとめて出土（写真2・3）



写真2 試掘坑No. 10 9段目出土遺物

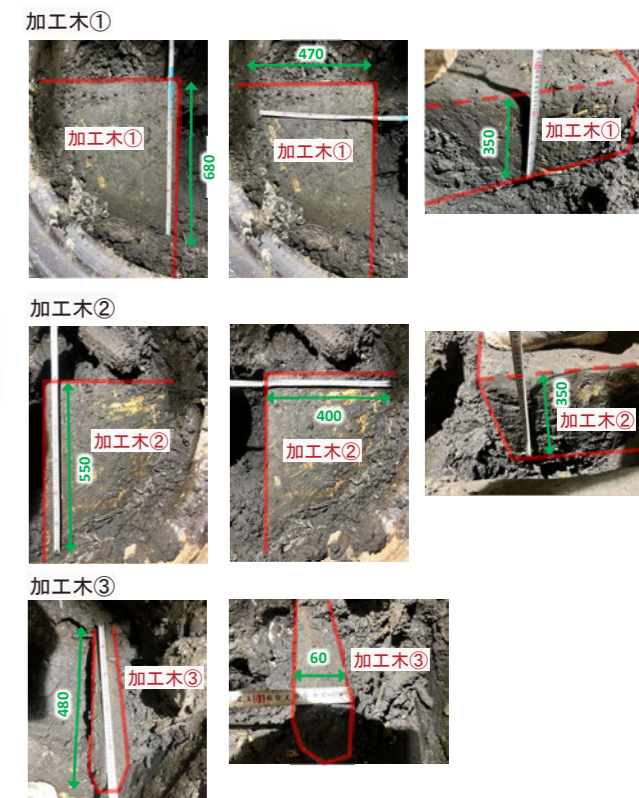


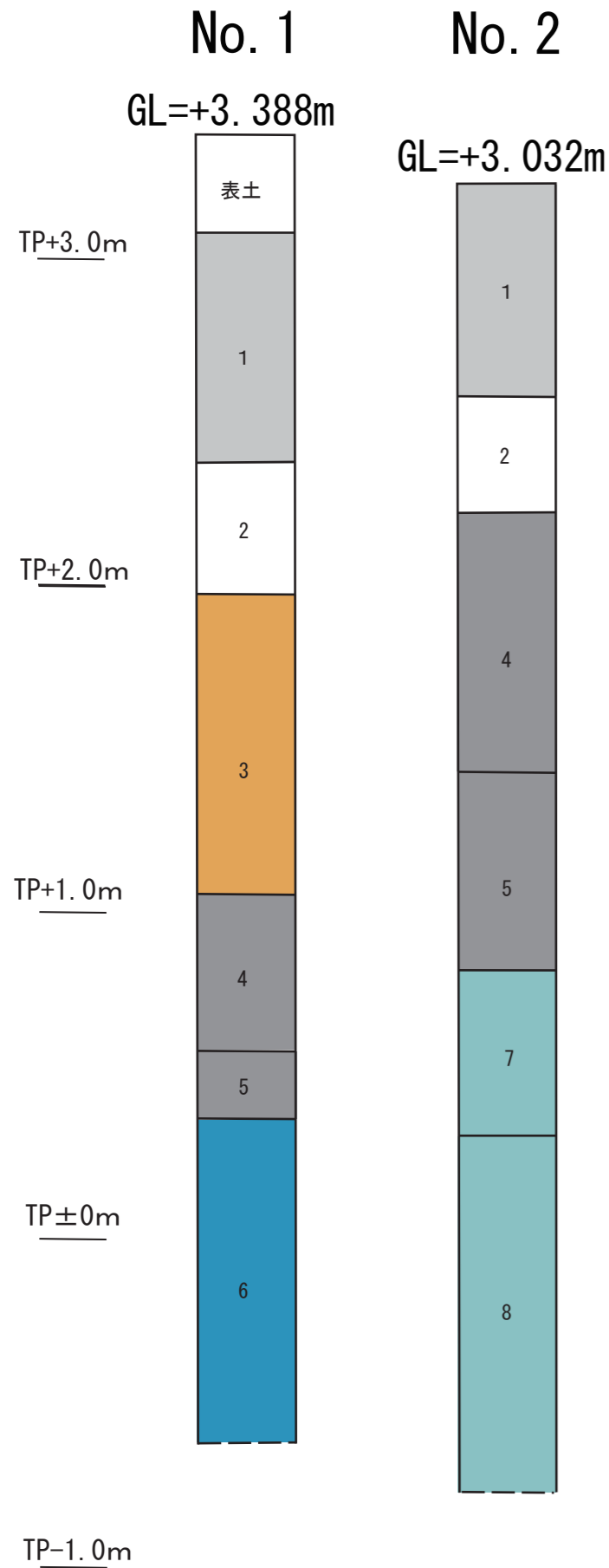
写真3 試掘坑No. 11 8段目出土遺物



ライナープレート10段目（GL-4.6m付近）で出現

No. 11 加工木検出状況





No. 1 : 薩摩台場内



No. 2 : 薩摩台場外

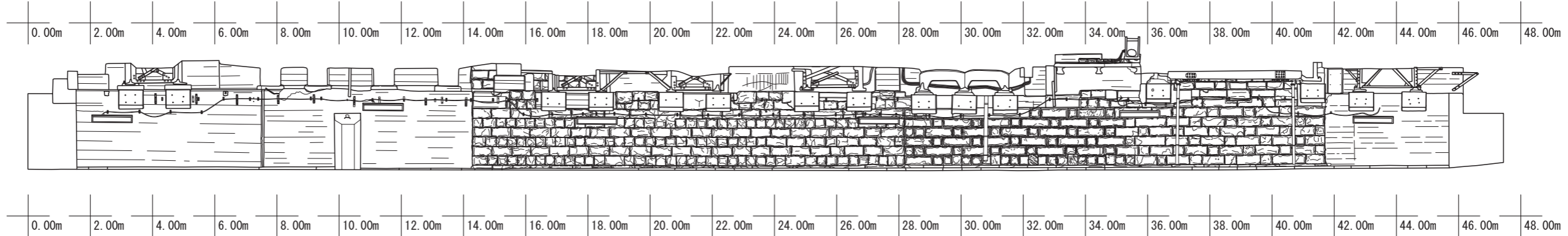
土層注記

1. バラスト層
2. 暗褐色土層
3. 黄褐色粘土ブロック層
4. 暗灰色粘土層 (泥土)
5. 暗褐色シルト層 (貝混じり、砂質強い)
6. 海砂
7. 砂質シルト層
8. 暗褐色粘土層

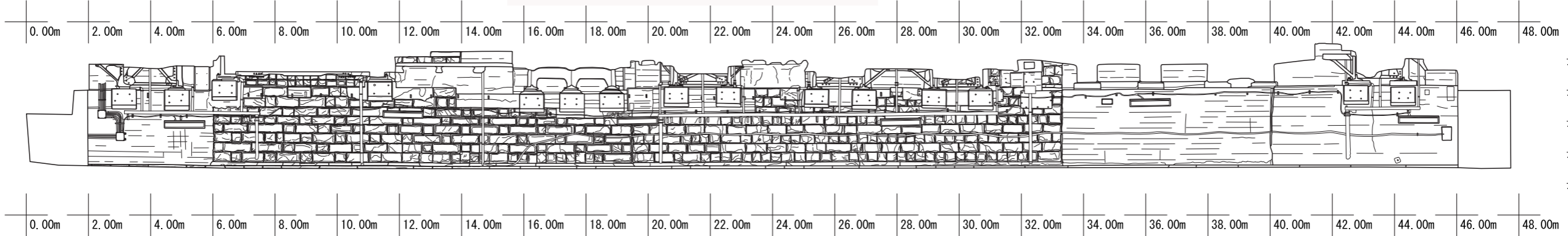
調査所見

- ・ 文献資料からNo. 1は薩摩台場内、No. 2は薩摩台場外に位置すると想定。
- ・ No. 1は、第3層の様相が到達立坑部試掘調査にて約TP+2.3~0.6mで検出した層と類似し、薩摩台場造成に伴う埋立土の可能性が高い。
- ・ No. 2は、第4~8層まで一部貝片が混入するものの、比較的均一な砂質シルト、または粘土層であり、薩摩台場より東側の埋立てに伴う土層と考えられる。
- ・ 遺物は検出されなかった。

品川方 立面図



東京方 立面図



A3 S=1:150

